

日本人の価値指向に関する研究（一）

「クラックホーンの価値指向理論と

その日本の農村社会コミュニティにおける適用」

原 喜 美

一、序

あらゆる人間行動は、それがいかに複雑怪奇で謎のように見えようとも、又いかに些細なものであろうとも、必ずその背後には、その行動を正当に説明する何らかの理由が存在するものである。これは民族の集団的行動についても同様に考えることが出来よう。現代のように異った人種、文化がギスギスと接触し合っている世界において、文化の相違から生ずる民族間の誤解、人種間の偏見、階層間の軋轢等は避け難いものであるが、一体何故にそのような誤解、偏見、軋轢が起るのであろうか。それ等の源を探ってみると、そこには或程度価値観、価値指向の相違に基く場合が、意外に多いことに驚くのである。そして又その文化の相違は、概して極めて皮相的なものであり、本質的には共通の要素を非常に多くもっている事にも気が付く。世界平和の実現が齊しく人類の

最大関心事である今日、価値指向の実証的科学的調査により、文化の規則性を発見することは、人類が当面する問題解決に多少とも役立つ一つの鍵を提供するものであろうかと考えられる。殊に価値の大転換を来したと一般に考えられる戦後の日本において、果して実際どのようになっているであろうか。

本稿は日本人の価値指向に関する実証的科学的調査の一つの試みであり、ハーバード大学において、多年研究の結果案出されたスキームと質問票を三つの日本の農村コミュニティに適用した結果の中間報告である。

II 価値 (Values) 並びに価値指向 (Value-Orientations) の概念

調査の報告に先立ち、価値並びに価値指向の概念を明らかにすることが必要である。

「価値」という概念は、極めて常識的に考えると道德の核心ということが出来る。云い換えれば、道德とは、価値に関する社会的協定、若しくは集団のもつ価値観である。「価値」は、哲学、倫理学、経済学、芸術、心理学、社会学、人類学等数多くの分野で共通に用いられる術語であり乍ら、各々異った意味を含み、何等の一致を見出すに至っていない。然し、クライド・クラックホーンによれば、「価値」という概念はむしろ多くの専門的研究を綜合する橋の役目をつとめることが可能であるとする。⁽²⁾ 又、通念的に価値は規範的命題とは関連をもつが、実存的命題とは無関係であると考えられているようであるが、E・L・ソーンダイクもこれに挑戦し、価値は規範的命題と実存的命題とを結ぶ役をすると規定している。⁽³⁾ この他、事実と価値とを分けて考える常套的な思考の習慣を破って、事実と価値との相互依存的関連を強調し、而も分析上は、両者は概念的に別個のものであるとす

る所説もある。⁽⁴⁾

クライド・クラックホーンによれば、価値とは、「望ましいもの」に関して、抽象化された一概念であり、時には明白に言動に表われ、又時には暗黙の中に含まれている場合もある。そして個人又は集団としての特徴を明白に表わし、その行動様式、手段、目的を實際に選択する場合、それ等に影響を与えるものであると規定している。⁽⁵⁾ 価値は文化と同様、そのものを直接に観察することは出来ず、個人により述べられた言葉、為された行動から抽象的に推論したものに外ならない。

価値の研究に当っては、価値は危機又は恐慌というような特別の状態の下に観察研究の方が更に効果的であるとも考えられる。例えば戦後の日本における民主化のように、主として外部から新しい価値を押しつけられた為、未だそれが十分に内面的に消化されずに、単に知識としてのみ記憶されている段階にあっては、外面的には、平時は人々は口々に新しい価値を語り、いかにもそれを支持しているような印象を与える時がある。然し、一朝危機に逢遇すると、ガラリと変り、予期に反する行動に出る場合が往々見受けられるからである。然し、この理由だけで、平時、静かに過ぎゆく日常茶飯事の価値の観察研究の意義を過小評価することは許されない。真の価値の把握に近づく為には、あらゆる場合を観察総合することが肝要である。複雑な人間のメンタリティは、屢々行動において偽り、口で真実を語ることも、又その逆の場合もあるからである。

次に「価値指向」の概念について説明すると、価値指向は、文化指向又は基本的価値と呼ぶことも出来る。⁽⁶⁾ 「価値指向」とは、文化を複合的総体として動的に把握した場合、その文化の底を流れる生活の方向づけ、いわば、

個人及び集団により把持されている人間生活の究極的意味の明確な規定である。⁽⁸⁾ L・タムソンの用いた文化の核心の概念もこの意味に近い。⁽⁹⁾

再びクライド・クラックホーンの定義を引用すれば、価値指向とは、自然、自然における人間の地位、対人関係について、又それ等に関連をもつ時に、「望ましいもの」、「望ましくないもの」と考えられる事について一般化され、組織化された概念であり、人間の行動に影響を及ぼすものである。⁽¹⁰⁾ 上述の定義から明らかであるように、価値指向の概念には、規範的命題と実存的命題との両方が含まれ、密接に関連をもっているのである。

三、価値指向分類のスキーム

この価値指向の実証的調査は、既述の通り、ハーバード大学において、F・クラックホーンを中心とし、数多くの学者により、アメリカ合衆国ニューメキシコ州のリムロック (Rimrock) (仮称) という六十哩平方の地域に共存し、農を主とする五つの異った文化をもつ集団、即ち、(1)ナバホインディアン、(2)モーマン教徒、(3)テキサス人、(4)メキシコ人、(5)ズニインディアンに対して行われたものである。⁽¹¹⁾

従来の文化に関する研究は、余りにも経験に即し過ぎ、文化を系統的に分類する組織や理論的構成に欠けていた。例えば、R・ベネディクトは「菊と刀」⁽¹²⁾において、日本人の文化及び行動のパターンについて、多くの事を指摘しているが、尚他の多くのパターンが見落され、その上系統的な分類を欠く為、直ちに他の文化と比較することは出来ないという批判を受ける。F・クラックホーンは、「文化には系統立った規則的な多様性があり、

若しこれが必要ならば、文化が動的に変動することはあり得ない。」⁽¹³⁾ ということに着眼し、多様性の理論を打ち建て、価値指向を分類し、一つのスキームを構成した。⁽¹⁴⁾

この理論の背後には、三つの基本的前提が設定されている。即ちその第一は価値指向の普遍的な面であり、いかなる時、いかなる場所、においても、人間が直面し解決を要する共通な問題というのは、決して無数にあるのではなく、一定の数に限定することが出来るという理念である。第二は、その共通の問題は、一定の数に限定出来るが、それに対する解答は多様である。然しその多様性も無制限、出鱈目なものではないという前提であり、第三の前提は、いづれの社会においても、程度の差こそあれ、必ず優勢な価値指向と、いくつかの副次的な価値指向とが存在するということである。

これ等三つの前提の上に、人間に関して、共通な、普遍的な問題は次の六つに集約される。即ち、

- (一) 基本的人間性とは何か。
- (二) 人間と自然との関係はいかなるものか。
- (三) 時間的拡りにおいて、いかなる次元に意義を見出すか。
- (四) いかなる人間の活動様式が高く評価されているか。
- (五) 対人関係の支配的なあり方はいかなるものか。

第六番目の問題として、人間と空間の関係はいかなるものかということが想定されるが、これは未だ充分に究明されていない。

次に価値指向分類のスキームを示すと第一表のようになる。

第1表 価値指向分類のスキーム

人間性 指向	悪 可変・不変	善・悪 可変・不変	善 可変・不変
対自然関係 指向	自然に服従	自然と調和	自然を征服
時 間 指 向	過 去	現 在	未 来
活 動 様 式 指 向	気分本位型 (Being)	折衷型 (Being-in-Becoming)	工夫実行型 (Doing)
対人関係 指向	縦	横	個人的

価値指向の各々について、主としてF・クラックホーンに従い、⁽¹⁵⁾ 簡単な解説を試みる。

(一) 人間性指向

古来から、人間性に関して、「人間性は悪である」「人間性は善である。」「人間性は善でも悪でもない。又はその混合である。」という三つの観点が認められている。その上、これ等三つの立場においてそれぞれ人間性は変えることが可能であるとする考え方と、変えることは不可能であるとする考え方に分けることが出来る。

ルソーがその著「エミール」において、人間本然の性がいかに善なるものであり、それが不純な環境によって、いかに墮落するかを説いていることは周知の事柄である。又、アメリカの植民地時代の文化は、人間性は完成し得る悪であるという清教徒的思想に根ざしていたが、現代の

アメリカは、F・クラックホーンによれば、善と悪の混合であるという考え方に近づきつつあるというのである。この他、孟子の性善説に対し荀子が性悪説を唱えたこと等は枚挙する迄もない。

(二) 対自然関係指向

人間が自然の力に服従する場合と、人間と自然が調和する場合と、人間が自然を征服する場合と三つの立場が考えられる。自然の猛威に対抗することが困難である農民や牧畜業者の中には、第一の立場を支持する者が多く、ナバホインディアンの伝統的な考え方は、自然との調和を重視し、機械文明の高度に進んだ民族は第三の立場に重点をおく。

(三) 時間指向

あらゆる社会において、必ず過去、現在、未来という三つの時間的次元が問題とされる。その社会によりいづれの次元に重点が置かれるかで相違が生じて来る。又時間的次元を二分して考える傾向もある。O・スペンゲル⁽¹⁶⁾は、過去をすてて、無限の現在と未来のみを考え、マックス・ウェーバーは伝統的保守的社会的過去の急進的社会的未来との二つのみを扱っている。

アメリカ文化は、一般に未来指向が優勢であり、日本の文化は、F・クラックホーンの観測によると現在指向が優勢であろうということである。この時間的次元の重点の相違が、屢々相互の理解を阻む主要な原因の一つとなっている。一例を挙げれば、二年程前、我が国の外務大臣がアメリカの大統領に会談を申し込んだところ、余り急であり、先方では予定が全部立っている為、今回は希望に副えぬという回答に接した。時の日本政府は、外相が国を代表して訪問しようというのに面子にかかわるといふ事で一もめしたことがあった。これは時間指向の相違ということや或程度その理由を説明することが出来るのではなからうか。即ち仕事はすべて数ヶ月先の予定を立てて、その予定通りに運んでいくという未来指向的な生活態度と、その時にならなければ計画が立たないとい

う現在指向的な考え方との喰い違いによるのではないかと思われる。過去に黄金時代が存在したと考えている民族は過去を尊重する。英国の貴族階級はその一例である。

(四) 活動様式指向

これは、かつてパーソナリティ指向⁽¹⁷⁾と呼ばれたが、パーソナリティという語は意味が広く、まぎらわしいのでその後このように改められた。この価値指向の基礎になっているのは、哲学者や文化史研究家により区別されている Being(ある)と Becoming(なる)の二概念である。この二概念に基づき、二つの指向の型が設定される。即ち Being 指向を今仮に気分本位型と呼んでおくが、これは何ものにも拘束されない、あるがままの状態、即ちパーソナリティに賦与されている本能や欲望の自然的発露を貴ぶが、そこには何等積極的な進歩発展は見られない。第二の型は Being-in-Becoming 指向(折衷型)は、量より質を重んずる点は第一の型に似ているが、自己の全人的顕現を重視し、殊に瞑想やこの世からの離脱により美的及び知的方面の発展を目指している。第三の型 Doing 指向(工夫実行型)は、アメリカがその典型的なものであるが、外的、客観的標準により測定することが出来る成就された仕事の量、その能率性を重んずる。

(五) 対人関係指向

対人関係においては、縦、横、個人的の三つの関係が基本的なものと考えられる。この三原則は、すべての社会、すべての集団に、多かれ少なかれ、必ず存在するものであるが、問題はどれが優勢であるかによる。それにより、その社会又は集団の目的に相違が生じて来る。縦の関係では、秩序立った、地位の意識の強い、時を通じ

第2表 質問票の指向別分類

対自然関係 指 向	時間指向	活動様式 指 向	対人関係 指 向
(4) 稲の病虫害	(3) 子供のしつけ	(1) 就職先定選	(2) 新しい橋の架設
(6) 神仏と自然の関係	(5) 未来に対する期待	(16) 生活に対する希望	(7) 不作の時の援助
(11) 田畑の使用方法	(9) 新しい工場の建設	(17) 生活様式	(8) 家の新築
(14) 自然に対する信念	(12) 人生観	(19) 家事	(10) 代表の選定
(18) 人間の命	(15) 冠婚葬祭	(20) 農閑期の過ごし方	(13) 雇人無しで働く時の続
	(23) 共同灌漑		(21) 動産の相
			(22) 不動産の相

日本人の価値指向に関する研究 (一)

ての継続性を重視し、祖父―父―子の関係が基調となる。横の関係では同様に集団の目的は個人の目的に先行する点には変りはないが、兄弟関係が基礎になっている。個人的関係では個人の自立性が貴ばれている。

従来、社会学者が集団の分類(ゲマインシャフト―ゲゼルシャフト、伝統的社会―急進的社会、農村―都会等)

に用いた概念と、この三つの対人関係の概念とは同一のものでなく、後者は、すべての人間関係を分析する時の要素と考えられる。

前述のスキームの中、(一)人間性指向を除き、他の四つの価値指向について、色々な場面を想定し、二十三の問題を設け、各々「あなたはどれを選ぶか」、「あなたの町や村の人々はどれを選ぶか」と両方の立場を尋ねている。(質問票は稿末に付す。)今質問票を指向別に分類すると第2表の通りである。

四、日本の農村社会における適用

A 調査の目的

本調査は日本の実情を考慮して、或程度修正した、F・クラックホーンの質問票を、いくつかの農村社会に適用し、日本文化の価値指向の系統的な多様性を発見し、それを以て他の文化と比較研究を可能な

らしめることを第一の目的とし、併せて価値指向から暗示される諸問題について研究することにより、農村社会研究の一助とすることを目指している。

B 調査の計画及び経過

元来この質問票は農村向きに出来ているので、先づ本州の東北、関東、中部、近畿、中国の諸地方に亘って、東北型農村と西南型農村⁽¹⁸⁾なども考慮しつつ、各地方からそれぞれ一つづつ農村社会を選び出し、モノグラフィックな調査に合わせ価値指向の調査を行う計画であるが、その予備調査として異った三つのタイプの東京近郊農村社会に価値指向の調査を行った。

昭和三十年五月三十日——六月七日までの約一週間、近郊畑作地帯である東京都北多摩郡小平町を対象とした。その調査の方法は、小平中学校において第三学年の農家出身の生徒五十名に対し、質問票の趣旨をよく説明して、家に帰ってから生徒自らが調査員となり、その父母に対し質問票を一問づつ尋ねるといふやり方である。回収率は88%。つづいて同年七月二十日——三十日までの十日間、近郊平野水田地帯である、北多摩郡狛江町K部落に対して調査を行った。K部落は五二戸より成り、地着きの有権者一二四名中、回答に応じた者七九名、回収率は64%である。方法としては、三、四軒づつを一グループとして、その中の有力者に調査の趣旨をよく徹底させ、数日後を約して質問票を回収した。二、三人文字を読むことに困難を感じる老人に対しては面接により調査した。

第三のタイプとして山村を選び、同年八月五日——十二日までの一週間、青梅市成木Y部落⁽¹⁹⁾に対して、調査を行った同部落は三十二戸より成り、対世帯の悉皆調査を行い、一戸当一人の割で三十二人から回答を得た。(但

第3表 三地域の環境諸条件

地域	位置及び交通関係	地域の広さ及び土地利用	農家世帯数
北多摩郡小平町	東京都西郊（区部隣接せず） 郊外電軍沿線 近郊住宅地化開始 工場なし 武蔵野台地上畑作地帯	<p>畑 68% 山林 11% その他 総面積 1506.7町</p>	<p>全世帯数 4566 農家世帯数 1032 専業 52% 兼業 48%</p>
北多摩郡狛江町	東京都南西郊（区部隣接） 郊外電軍沿線 近郊住宅地 工場（機械3，繊維1） 多摩川沿岸低地帯 水田及び畑作	<p>畑 54% 田 18% 山林 4% 原野 その他 総面積 461.1町</p>	<p>全世帯数 2483 農家世帯数 393 専業 44% 兼業 56%</p>
青梅市成木（旧成木村）	東京都西部山地（平地部隣接） 青梅市及び飯能市よりバス約40分 近郊住宅地なし 工場（繊維3） 山村依存の兼業農家地域	<p>山林 78% 畑 12% 原野 6% 田 0.8% その他 総面積 1149.5町</p>	<p>全世帯数 647 農家世帯数 472 専業 17% 兼業 83%</p>

東京都統計年鑑による（昭和29年2月1日現在）

第4表 地域別・年令別・男女別 調査人員

調査地域	20—29		30—49		40—49		50—59		60—69		70—79		計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
小平	2	3	1	2	13	11	9	2	1	0	0	0	26	18
狛江	16	11	10	8	6	8	4	6	7	2	1	0	44	35
成木	3	4	3	3	2	3	3	5	4	1	0	1	15	17
計	21	18	14	13	21	22	16	13	12	3	1	1	85	70

日本人の価値指向に関する研究（二）

第5表 三地域の価値指向

価値指向		対自然関係			時間			活動様式		対人関係		
		服従	調和	征服	過去	現在	未来	気分本位型	工夫実行型	縦	横	個人的
小平 N=44 {M=26 F=18}	自分%	11.8	23.2	65.0	3.4	55.4	41.2	31.8	68.6	8.6	55.0	36.0
	世間%	26.5	30.2	43.3	25.3	51.1	23.6	39.2	60.8	29.8	33.6	36.6
狛江 N=79 {M=44 F=39}	自分%	15.7	21.1	63.2	5.5	45.9	48.6	29.2	70.8	21.2	34.1	44.7
	世間%	31.7	24.8	43.5	21.2	41.0	37.8	38.3	61.7	46.8	14.9	38.3
成木 N=32 {M=15 F=17}	自分%	29.5	23.1	47.4	8.6	56.5	34.9	42.6	57.4	23.7	26.0	50.3
	世間%	32.7	57.1	10.2	55.5	24.1	20.4	23.1	76.9	72.4	15.4	12.2

第6表 職業別価値指向 (東京都北多摩郡狛江町K部落)

価値指向		対自然関係			時間			活動様式		対人関係		
		服従	調和	征服	過去	現在	未来	気分本位型	工夫実行型	縦	横	個人的
農業 N=46	自分%	19.2	25.6	55.2	7.3	46.9	45.8	26.6	73.4	28.1	29.7	42.2
	世間%	32.9	22.4	44.7	17.3	46.0	36.7	42.1	57.9	39.4	18.7	42.0
その他 N=33	自分%	10.9	15.2	73.9	3.1	44.5	52.4	32.7	67.3	11.1	38.4	50.5
	世間%	30.0	28.1	41.9	26.6	33.9	39.5	33.5	66.5	50.2	21.1	28.7

第7表 職業別分類 (狛江町K部落)

農業	交通業	工業	商業	教員	会社員	公務員	学生	無職	その他
46	1	2	2	4	4	10	1	3	6

し一世帯欠、同一世帯から一ヶ所だけ二名回答している)。K部落の場合と同様に二、三人の老人に対しては口頭で質問した。

C 調査地域の環境的諸条件

調査の対象になった地域の環境的諸条件を要約して示したのが第3表である。

D 価値指向の分析及び批判

調査の結果、百分比であらわされた価値指向(第5表)について分析を行うと、三地域共通の傾向として次の諸点が指摘される。対自然関係指向については、自分を判断した場合はいづれも人間が自然を征服するという指向が優勢であり、F・クラックホーンの調和の予測はここでははずれている。時間指向については、自分に対する評価は大体现在指向が優勢で、過去指向は非常に僅かである。唯特に際立っているのは成木Y部落の場合で、世間はどうかという問に対して圧倒的に過去指向である。同一の対象を評価しているにも拘らず、自分を評価する場合には現在指向で、その二つの間に、非常に大きな相違が存在することは、この地域の特殊性を物語っていると解釈出来るであろう。即ちこの地域は元来非常に交通の不便な山間の寒村で極めて封建的な色彩が強いにも拘らず、戦後急激に需要を増した材木のブームにより経済的な大変動を経験し、地域としてフラストレーションを起している現れではなからうか。

活動様式については、自分、世間共に工夫実行型が優勢になっている。この工夫実行型は必ずしも篤農精神と一致するものではないが屢々混用され、又時には打算的な考えなどと取り違いをされることもある。最後の対人

関係指向について共通な点は、對自己評価と對世間との評価の相違で、世間はどうかという時には、いつも自分の場合より上下の関係を重視している傾向がある。特に成木では、自分の評価については個人を重視し乍ら、世間については殆ど逆転して上下の関係が優勢であるとしている。この地域では、專業農家ですら殆ど大部分の子弟が山林勞務者、工員、自動車運転手、公務員等になり日給稼ぎを行っている。而もこの「日傭とり」は定着性がなく、昨日はA地主の山林で働いたかと思えば明日は製材所の手伝いをするといったように、転々と職を変える青年が相当多く彼等は利害関係に非常に敏く打算的である。一方学校などでこの地域一般の傾向として指摘される特徴は、「社会性がない。返事がハキハキしない」という点である。これ等を綜合すると、表面的には変貌しつつあるようでも、郷土には未だ古い価値指向が根強く残っていると考えられる。又この個人的指向は本来自主性を貴ぶ傾向であるのに、ここにおいては或程度利己的な意に解されている疑もある。概して自分はどうであるかという判断については、實際より理想化する傾きがない事もないので、世間に対する評価の方が妥当性があると考えられよう。

又用語については度々検討を加え、出来るだけ平易にしかも本質的に意義を変えずに翻案した⁽²⁰⁾。例をあげると、質問票(二)は原文では井戸を共同で掘るということであったが橋を架ける共同作業に変更、(四)は家畜が疫病で死んだというのを病虫害により不作になったと改めた。(八)は単に親類同志共同して仕事をするという原文を、家を新築するという具体例をとり上げ、(九)は原文には軍需工場とあったのを新しく工場を建てると訂正した。(十五)の英語版は宗教的行事となっているが、冠婚葬祭と一般的にした。(二十一)は原文は羊、牛とな

っているのを動産の分配と変更した。以上本質的な変更は極力避けたが、言語上のバイヤスは恐らく免れ難いものである。又農業そのものについても、日本と比較した場合、その規模、農業経営法、機械の進歩等異なるものがあるので、それから来る誤差も避け難いものである。

次に泊江町K部落について、価値指向を一応農業とそれ以外の職業に分けて比較を試みた。(第6表)その場合優勢な価値指向は殆ど一致を見ることが出来る。唯時間指向について、農家の方が幾分現在指向に傾いているのに、それ以外の職業が未来を指向していることと、対人関係指向において、世間を評価した時に多少両者に喰い違いが出て居る。この地域は生活が安定して居り、東京近郊であり乍ら、「純朴さ」の残っている地域である。価値指向の結果も、余り予期に反した突飛な違いは見られない。部落の結合は二軒の大本家を中心として、非常によくまとまっている。この比較から推測出来ることの一つは、農業以外の職業でも、その部落の一部を成している時は、同化作業により互に相当近似せる価値指向を保っているということである。

この質問票の最大の難点は実施に当って時間がかかるという事である。指向別に五―七問づつ設けられてあるので信頼度を驗す上には好都合であるが、時間、労力の節約という点で検討の余地を残している。最後にこの質問票の妥当性はどうであろうか。これについても充分に疑問をはさみ、更に検討を要する。尚根本的にこの価値指向理論の構成そのものについても批判の声を聞くのであるが、それにも拘らず、モノグラフィックな調査と関連させてこの価値指向の研究を進める事に一層の意義を見出すのである。

五、結 び

以上予備調査をもととした第一回の報告を行ったが、本格的な研究は今後に残された課題である。平時は行動を共にする同じ社会構造をもった農村社会も、一度事が起った場合には東西に別れることがあるが、その理由なども事例研究等により或程度説明される事であろうし、又農村社会の類型別調査、価値指向の階層的差異等研究の余地は多い。

民主主義の基礎は価値のあり方、その方向であり、単に西洋式生活様式の猿真似ではない。最も困難とされている農村の民主化の問題、しかもそれなくしては日本の社会全般の民主化は不可能であるとされているが、その民主化を阻む事情は何であろうか。この問題の解明についても、価値指向の調査は、一つの科学的根拠をもった見解を与えるものと考えられる。

六、質 問 票

- 一、姓名(書かなくてもよろしい)
- 二、生年月日、年令
昭和 年 月 日生(歳)
- 三、性 別
- 四、住 所
- 五、家の職業
- 六、あなたの職業
- 七、学 歴
- 八、この土地に住んで何年になりますか
- 九、その前どこにいましたか
- 十、あなたの家の宗教
- 十一、あなたの信じている宗教
- 十二、調査年月日 昭和 年 月 日

(一)

ある男の人が仕事を探していたところ、偶然二つの就職先が見つかりました。それぞれの雇主は、二人共性質

の違う人でした。もしあなたが雇われる立場であったら、どちらの雇主を選びますか。

イ	ロ	ハ	ニ
<p>雇主甲は仲々はっきりした人で、世間の雇主より高い給料を払う代りに仕事には充分精を出し、いい加減なことはしてもらいたくない、とっています。例えば雇人が時々だまって断わりもせず、さぼって旅行に出掛けたり、遊びに行ったりすることは好みません。もしそういうことをすれば、再びその雇人もどって来ても、仕事を与えません。</p> <p>雇主乙の方は給料は世間並みに払い、大してやかましくありません。彼は雇人は時には仕事を休み、旅行に出掛けたり、遊びに行ったりするものだという考えで、別にそういうことがあっても、それ程とがめ立てもせず、再び戻って来た時には、又仕事を与えます。</p>			

(イ) もしあなたであったら、どちらの雇主を選びますか。順序をつけて下さい。

(ロ) あなたの町や村の人達は、どちらの雇主がよいと思うでしょうか。順序をつけて下さい。

(ハ) あなたが雇主であったら、甲になりますか。乙になりますか。順序をつけて下さい。

(ニ) あなたの町や村の人達が雇主の立場をとる時、甲の雇主になる人が多いでしょうか。乙の雇主になる人が多いでしょうか。順序をつけて下さい。

(11)

今、ある部落で新しい橋をかけるとします。橋をどこにかけるか、誰がどういう仕事をするか等の問題をとりきめるのに、三通りのやり方があります。

イ	
ロ	
	<p>部落によると、立派な家柄の年長者や旦那衆が全部計画を立ててしまい、他の人達は、云われる通り働きます。それは、何事によらず、いつも仕事をする時は、そういうやり方をしますし、又その人たちは実際に経験もあるからです。</p>
	<p>又ある部落では、計画を立てる時から、皆が集って、殆んど一人残らず意見を述べ、皆がこれがよいと同意するまで、何事も運びません。</p>
	<p>又ある部落では、一人一人はっきりした意見をもち、何か定める時は投票によります。反対意見があっても、多数決により仕事を運んでいきます。</p>

- (イ) この三種類のやり方をみて、あなたはどれがよいと思いますか。よいと思う順に番号をつけて下さい。
- (ロ) あなたの町や村の人達は、どのやり方を選ぶでしょうか。順序をつけて下さい。

(三)

人々が子供の「しつけ」について話し合っています。ここに三種類の異った方法があります。

イ	
ロ	
	<p>子供というものには、過去の慣習や、年寄りのやり方を、充分教えこまなければならぬ、と</p>

いう風に考える人があります。古くからのやり方が一番よいやり方であって、何か事がうまく行かないのは、子供達が、昔のやり方に従わなかったり、忘れたりしてしまった時であると思ひこんでいます。

勿論、昔からのやり方の中には、子供達に充分教えこまなければならぬものもありますが、唯それだけに固執してしまうことは間違っていると考えます。この人達は、子供達が現在の社会に生活するためには、新しい方法も身につけなければならぬと信じています。

子供達には、過去のことは面白い話位にしておき、それ以上、過去の慣習、年寄りのやり方などは、教えこむべきではないと考えている人達もいます。その人達は、子供達自身で新しい方法を発見させるように導いて行かなければ、世の中の進歩に追いついていけないと考えます。

(イ) この三種類のしつけの方法で、あなたはどれが一番よいと思えますか。順序をつけて下さい。

(ロ) あなたの町や村の人達は、どの方法が一番よいのでしょうか。順序をつけて下さい。

(四)

ある人が、広い田畑をもっていました。どういいうわけか病虫害によってその大部分の田畑が不作になってしまいました。このことについて世間では色々噂を立てていました。

イ	ロ
ある人達は、こんな風に云っていました。「こんな不幸があっても、別に農夫を責めることは	

出来ない。世の中には、人間の力ではどうにもならないことがたくさんある。よい事も悪い事も仕方がない。運命として受けるより方法がない。」

ある人達は次のように云っていました。「きつとあの農夫がよくない事をしたからなのだろう。自然と人間の調和を乱したからであろう。」

又次のように云う人々もありました。「そんな大きな被害を受けたというのは、恐らく彼の過失である。予防する方法をとるべきであった。もし最新の方法を学んでそれを実行すれば、そんな病虫害など受ける筈はない。」

(イ) この三つの理由の中あなたはどれが本当だと思いますか。よいと思う順に番号をつけて下さい。

(ロ) あなたの町や村の人達は、どれが本当であると思うでしょうか。順序をつけて下さい。

(五) の A

四〇歳までに対して

三人の若い人達が両親の生活と自分達の家族のこれからの生活を比べながら話をしていました。三人の意見はまちまちでした。

イ	
ロ	
	<p>甲は若し一生懸命に働き、ちゃんとした計画を立てれば、自分達の家族の生活は、両親や親類の暮しより、更によくなると思っています。一生懸命にやれば、この国ではいくらでも暮し向</p>

まがよくなるものと考えています。

乙は自分の家族の生活が、果してよくなるか、現在のままか、又は両親や親類より却って悪くなるか、いずれとも分らない。いくら働いても事態はよくなることも、悪くなることもある。一体暮し向きがどうなるか誰にも分らないと、考えます。

丙は自分の家族の生活は両親や親類と殆ど同じであろうと思っています。最善の方法は、一生懸命に働き、今まで通りの状態をそのまま維持することであるといっています。

(イ) これら三人の中、あなたは誰の考えに賛成しますか。よいと思う順に番号をつけて下さい。

(ロ) あなたの町や村のあなたと同年輩の人達はどの考え方を選ぶでしょうか。順序をつけて下さい。

(五) の B

四〇歳以上に対して

三人の年長者が子供達将来の生活について、それぞれの考え方を述べていました。

イ	
ロ	
	<p>甲は「子供達は彼等次第で、一生懸命働き、ちゃんと計画を立てさえすれば、自分達よりはましな生活が出来ると思う。一生懸命やる人には必ずいつも道が開けるものである。」といいました。</p>
	<p>乙は「子供達の時代になり、果してよくなるか、悪くなるか、現在のままか、分らない。いく</p>

ら一生懸命に働いても、よくなることも、却って悪くなることもある。だからなんともいえな
い」と考えていました。

丙は「子供達は、私達がして来たように、昔のままの状態を維持してくれることを期待する。
一生懸命に働いて、昔のように万事を維持していくことが彼等のつとめである。」といました。

(イ) この三人の中、誰の考え方をあなたは選びますか。よいと思う順に番号をつけて下さい。

(ロ) あなたの町や村の同年輩の人々はどの考え方が一番よいと思うでしょうか。順序をつけて下さい。

(六)

神様(又は仏様)と人間との関係、神様と自然との関係、その自然の中には天候、その他あらゆる自然現象を
含んでいて、それが農業の収穫具合に大きな影響を与えていますが、それ等の関係について色々考え方がありま
す。

イ	
ロ	
	<p>神様と人間は常に力を合わせて働くもので、作物や家畜の状態がよいとか悪いとかいうことは ひとえに人間がその為すべき仕事を行い、神様や自然の力と調和させているかいないかにかか っている。</p> <p>神様は作物や家畜に影響を与える為に、特にその力を使われるようなことはなく、その状態を 変え、何とか調節する方法を見出す仕事は人間に任された仕事である。</p>

神様がどの様にその力を使って家畜や、作物の成長を左右するかは、人間により計り知られるところではない。人間がその状態を変えようなどと考えることは無駄なことで、最善の方法はその状態をそのまま受け入れ、出来る限りを尽すことである。

(イ) この三つの考え方の中、あなたはどれをとりますか。よいと思う順に番号をつけて下さい。

(ロ) あなたの町や村の他の人達は、どれを選ぶでしょうか。順序をつけて下さい。

(七)

ある人が不作の年にあい、又は家畜がたくさん死んだりしたとします。その家族は冬を無事に過す為にもどこからか助けをもとめなければなりません。助けを得る方法に次の三つが考えられます。

イ	ロ	ハ
	<p>兄弟、姉妹、又は親類に頼って一人一人から出来るだけのことをしてもらおう。</p>	<p>誰にも頼らず、自力で何とかお金を都合する。</p>
<p>親方とか、本家に行って何とかなるまで助けてもらおう。</p>		

(イ) 助けを得る三つの方法の中どれが一番よいでしょうか。順に番号をつけて下さい。

(ロ) あなた自身であったら、どれを実際に選びますか。順序をつけて下さい。

(ハ) あなたの町や村の人々は、どれが最善の方法と思うでしょうか。順序をつけて下さい。

(八)

近所に住む親類同志の中、誰かが家を新築する場合、三つの態度が考えられます。

イ	ロ
	<p>ある部落では、それぞれ別の世帯をもつ親類は、独立して自分の家族だけの責任をとり、親類でも、他の家の事に迄手は出さないというように考えます。</p>
	<p>又ある部落では、親類同志はよく話し合い、一緒に協力して新築の手伝いをします。指導者が必要ならば、誰か一人を選びますが、その場合は、必ずしも年長者とか顔役に限りません。</p>
	<p>ある部落では、常に年長の有能な人が責任をとり、大切なことはすべてその人に定めてもらい、他の親類の人達はその人の命令通り一緒に新築を手伝います。</p>

(イ) この三つの中、あなたはどれがよいと思いますか。順に番号をつけて下さい。

(ロ) あなたの町や村の人達はどの方法を選ぶでしょうか。順序をつけて下さい。

(九)

ある町(村)でその近くに新しく工場が出来るというので、人々は色々それぞれについて話し合っています。

イ	ロ
	<p>「どうなるか分らない。よくなるかも知れないし、悪くなるかも知れない。とにかく暫く待っ</p>

て様子を見よう」という人々もあります。

「工場が建つには大賛成である。何とか実現するよう尽力しよう。こういう新しいものはとにかく事態を改善し、この地方を向上させることになる。」といている人々もあります。

「工場をこの地域に入れることには絶対反対である。そんなものが入って来ると、人間やその他すべてを急激に変えてしまう。とにかく今迄やって来たやり方をこわすことは望ましくない。」とって反対する人々もあります。

(イ) あなたはこの三通りの考え方の中、どれに賛成しますか。よいと思う順に番号をつけて下さい。

(ロ) あなたの町や村の人々はどの考えを選ぶでしょうか。順序をつけて下さい。

(十)

あなたの町(村)で陳情のため、代表を選んで送らなければならない時、どういう風にその代表を選ぶでしょうか。

	イ	
	ロ	
		<p>総会を開くと殆ど一人残らず出席して、皆が一つの結論に到達するまで議論します。後投票によって代表を定めますが投票する時までには、誰が選ばれるか大抵見当がついています。</p>
		<p>長い経験をもつ年長の有力者に、代表を決定する責任をとってもらいます。</p>
		<p>総会を開き、指名をして、投票により、多数決で決めます。たとえば、その選ばれた人に対して</p>

尚反対者があっても構いません。

(イ) この三つの選出方法の中、あなたはどれが最もよい方法と思えますか。よいと思う順に番号をつけて下さい。

(ロ) あなたの町や村の人達は、どれを選ぶでしょうか。順序をつけて下さい。

(十一)

ここに三人の農夫がいて、それぞれ田畑をもっていますが、三人が田を植えたり、種をまいたり、とらへれ収穫をした
りする方法はまちまちです。

イ	
ロ	
	甲は田を植え、種をまき、仕事に精を出し、そして生活のし振りも仲々ちゃんとしています。彼の考えでは、一生懸命に働き、人間と自然とが調和を保つことにより、作物がよく実るようになるのだと考えています。
	乙は田植えや種まきをしますが、その後彼はそれ程仕事に精を出すという程でもなく、適当に仕事をします。作物が実るか実らぬかということは、主として天候によるもので、人間がどうすることも事来ないと考えています。
	丙は田植えや種まきをして、それから充分時間をかけ、あらゆる科学的方法を利用します。彼の考えでは、こうすることにより、作物に対する悪影響を防ぐことが出来ると思っています。

(イ) この三つの中、どの方法が一番よいでしょうか。よいと思う順に番号をつけて下さい。

(ロ) あなたの町や村の人達は、どのやり方を選ぶでしょうか。順序をつけて下さい。

(十二)

人々は過去のこと、未来のことについて色々異った意見をもっています。次に三つの考え方を紹介します。

イ	ロ
	<p>ある人々は現在起っている事柄に最大の注意を向けることが一番よいと考えています。過去はもう過ぎ去ってしまった事であるし、未来は不確実で頼りにならない。事態はよくも悪くもなるものであるから、長い眼で見れば殆ど同じであり、一番よい生活態度というのは、古いものでもよいものは残し、生活を改善する為には新しい方法もとり入れることであると考えています。</p>
	<p>ある人々は伝統的な古くからのやり方こそ一番よい方法であり、変化が起る度毎に、すべての事が悪くなると考えます。それで一番大切なことは、古くからのやり方を維持し、もしそれが失われた時にはそれを何とか取りもどすことを考えなければならぬといっています。</p>
	<p>所がある人々は、最善の方法は未来の新しい方法であると考えています。時には弊害があっても、変化は必ず長い間には改良をもたらすものであると信じます。未来に眼を向け、努力してよりよい未来を実現させるためには、現在はある程度我慢するといった態度をとります。</p>

(イ) この三つの人生に対する考え方の中、あなたはどれを選びますか。よいと思う順に番号をつけて下さい。

(ロ) あなたの町や村の大抵の人は、どの考えの人に近いでしょうか。順序をつけて下さい。

(十三)

雇人を使わずに仕事をする場合、三つの方法が考えられます。

イ	
ロ	
	一つの方法は自分一人だけで働くのです。自分自身主人になり、大抵のことは自分で定めてしまい、自分のことさえしていればよく、他人を頼るようなことはしません。
	第二の方法は、別に誰が長というわけでもなく、集団をつくり、一緒に仕事をする方法です。物事を決定する場合には、各自が発言権をもち、互いに他を頼り合ってやっていきます。
	第三の方法は、長い間支配的な立場にあった顔役のために働くという方法です。この場合、各自は何等発言権をもたず、唯首に頼れば万事うまく運ぶと考えています。

(イ) あなたはこの三つの方法の中、どれを選びますか。よいと思う順に番号をつけて下さい。

(ロ) あなたの町や村の人達は、どの方法が一番よいと思うでしょうか。順序をつけて下さい。

(十四)

異った所からやって来た三人の男の人が、天候やその他の自然現象を左右する力について話し合っていました。三人の意見はまちまちです。

イ	
ロ	
	<p>甲は「我々の仲間は、雨、風、その他の自然現象を左右するような事は未だかつてしたこともないし、又これからもそういうことはしないであろう。これまでには豊作もあれば、凶作もあった。物事はそういつもうまくいく事はないので、自然の成り行きに任せ、その通り従っていくことが一番賢い方法である。」といたしました。</p>
	<p>乙は「我々の仲間では人間は自然を支配することが出来ると信じている。いまに必ず干ばつや洪水も喰い止める方法を考え出すであろうと考えている。」といたしました。</p>
	<p>丙は「我々の仲間では雨、風、雪その他の自然現象を起す力と調和を保つことにより、万事うまく運ぶことが出来ると信じている。もし我々がすべてを正しい、あるべき姿に保ち、正しく生活し、土地、家畜、水すべてを最善の姿に保っておけば、万事都合がよく進行する。」といたしました。</p>

(イ) あなたはこの三人の中、誰の意見に賛成しますか。よいと思う順に番号をつけて下さい。

(ロ) あなたの町や村の人々はどれを選びますか。順序をつけて下さい。

(十五)

ある村では冠婚葬祭が昔のやり方と大分違って来ましたが、それに対して人によって考え方が異なっています。

イ	
ロ	

ある人達は冠婚葬祭が変化したことを非常に喜んでいます。その人達の考えでは新しいものは何でも進歩を促し、よいものである。それだから冠婚葬祭でも矢張り変わった方がよいと考えています。

ところが変わったことについて不満をもっている人達もいます。その人達は冠婚葬祭などは、過去の慣習そのままを維持することが一番よいと考えています。

一方ある人達は冠婚葬祭などは昔のままの方がよいが、そうかといってそれに固執している訳にはいかない。変ったら変ったでそれをそのまま受け入れた方が人生を送る方法として容易な方法であると考えています。

(イ) あなたはこの三通りの考え方の中、どれが一番よいと思いますか。よいと思う順に番号をつけて下さい。

(ロ) あなたの町や村の人々は、どの考えを選ぶでしょうか。順序をつけて下さい。

(十六)

甲と乙との生活に対する希望はそれぞれ異なっていました。

	イ	ロ	ハ
	<p>甲は何か仕事をするなら徹底的にして、他の人よりはずっと立派にやりとげたいという希望をもち、その結果を見とどけて、やり甲斐のある仕事をしたいいいます。</p>		
	<p>乙は何かする時は先ず充分に考えて、自分に一番適した方法を考え出すというやり方をと</p>		

り、仕事は量からいってそれほど出来なくとも、やりながら楽しめる方がよいと考えます。

(イ) あなたはどちらがよいと思いますか。よいと思う順に番号をつけて下さい。

(ロ) あなたはどちらに近いでしょうか。順序をつけて下さい。

(ハ) あなたの町や村の人達はどちらを選ぶでしょうか。順序をつけて下さい。

(十七)

二人の農夫がいました。それぞれ生活様式が大変異っていました。

	イ	ロ	ハ
	<p>甲は作物の手入れをしますが必要以上の骨は折りません。余暇は友達を訪ねたり、見物に出掛けたり、楽しみを求めて暮します。甲はこういうやり方を好みます。</p> <p>乙は余暇があれば雑草を抜いたり、畑の手入れをしたり、ありとあらゆることをして畠をよくします。その為余暇など殆どなく、友達と楽しむことも少いのですが、乙にはこの方がよいと思われまます。</p>		

(イ) あなたの場合でしたら、甲か乙かどちらのやり方をとりますか。順序をつけて下さい。

(ロ) (男の人にのみ) あなたは甲、乙、いずれに近いでしょうか。順序をつけて下さい。

(ハ) あなたの町や村の人達はどちらを選ぶでしょうか。順序をつけて下さい。

(十八)

果して人間の力で寿命を延ばすことが出来るかどうかについて、三人が論じ合っていました。

イ	ロ
<p>甲は「既に証明されているように、現在は医学の進歩によって、新しい薬の発見や種痘、注射等によって病気の予防が行われ、又食生活も改善されて現に人間の寿命が大変にのびている。もし我々が新しいこういう事実に関心を向けられれば、人間の寿命を必ずのばすことが出来る。」と申します。</p>	<p>乙は「人間は自分の寿命をどうすることも出来ない。人間には一定の与えられた寿命というものが、その時が来たら否応なしに死んで行くものである。」と申します。</p> <p>丙は「すべて生きと生ける物が共に進んでいく一つの計画がありこの計画と調和させて生活すればその人は他の人々より長く生きられるのである。」と申します。</p>

(イ) この三人の意見のうち、どれがあなたの考えに一番近いでしょうか。よいと思う順に番号をつけて下さい。

(ロ) あなたの町や村の人たちはどれを一番正しいとするでしょうか。順序をつけて下さい。

(十九)

二人の女の人が各々その暮し方について話合っていました。

イ	ロ	ハ
<p>甲の婦人は「自分は十人並みに精を出して働くけれどもある一部の人達のように余分なとまで精力を使いたくない。」と申します。「余分なこと、例えば台所の改善とか冠婚葬祭の簡素化とか、家の中のことでも、外のことでも、新しいことに手をつけたりするようなことまではしない。その代り、友達を訪問しておしゃべりをし合ったり、旅行や見物に出かけたり、又は井戸端会議のようなことをして閑な時を過す。」と申します。</p>	<p>乙は例えば台所の改善など何か自分の興味あるような新しい仕事をみつけて、それに力を入れ効果が上がったときに一番満足を感じると思います。</p>	

(イ) この二人の中、婦人の生活態度としてどちらがよいでしょうか。よいと思う順に番号をつけて下さい。

(ロ) (婦人だけに) あなた自身はどちらの婦人に近いでしょうか。順序をつけて下さい。

(ハ) あなたの町や村の人たちはどちらの婦人のやり方を好みますか。順序をつけて下さい。

(二十)

二人の男の人が仕事のない時過ぎ方について話し合っています。

イ	ロ
<p>甲は仕事のない時は自分の仕事を向上させる方法を色々習ったり、試みたりするのに使います</p>	

乙は仕事のない時は友人達としゃべったり、歌ったりして過します。

(イ) あなたは甲、乙、どちらの生活態度がよいと思えますか。よいと思う順に番号をつけて下さい。

(ロ) あなたの町や村の人達は甲に賛成ですか、乙に賛成ですか。順序をつけて下さい。

(二十一)

親が子供に遺産(動産)を残して死にました。その遺産の分配について三つの方法が考えられます。この遺産を受けつぐ子供達は皆一人前になってそれぞれ近所に住んでいます。

イ	
ロ	
	ある所では長兄が責任をもって全額の遺産の管理に当たります。
	又ある所では、息子、娘、一人々々が独立して自分の分け前の責任をとり、その管理に当たります。
	又ある所では、息子、娘、全部が一緒になって遺産を共有し、一緒に働き、もし必要があれば首 <small>カシラ</small> になる人を選びます。その場合は必ずしも年長者がなるとは限りません。

(イ) あなたはこの三つの中、どれを選びますか。よいと思う順に番号をつけて下さい。

(ロ) あなたの町や村の人々はどれを選ぶと思えますか。順序をつけて下さい。

(二十二)

今度は前回の遺産（動産）の代りに田地、田畠（不動産）の相続について質問致します。

親が子に田地、田畠を残して死にました。この子供達は皆一人前になってお互いに、近所に住んでいます。さてこの財産を分配するのに三つの方法が考えられます。

イ	
ロ	
	ある所では、たとえその財産が皆に分配されても、長男が責任をもって管理に当ります。
	ある所では各自が別々に独立して自分の分け前だけの責任をもってその管理に当ります。
	又ある所では息子、娘全部が、その田地田畠を共有して、一緒に利用します。誰か長が必要な時には集って相談の結果、定めます。その場合は必ずしも年長者とは限りません。

(イ) あなたはこの三つの中、どれを選びますか。よいと思う順に番号をつけて下さい。

(ロ) あなたの町や村の人々はどれを選ぶでしょうか。順序をつけて下さい。

(二十三)

村の共同灌漑用水の便をもっとよくする為に、県の方から補助金をくれると申します。具体案を立てるのに一
 体水がどの位来るか全然分らないので、その計画についてそれぞれ異った考えもっています。

イ	
ロ	
	新しい水を分配するなら、過去のならわしに従って分配しようという人々もあります。

	水を分配するならば、本当によい計画を前もって立てておき度いと考えている人々もあります。
	計画は水が来てからでなければ話にならないから、水が来る迄待とうと考えている人々もあります。

(イ) こういう場合、あなたはどの考えに賛成ですか。よいと思う順に番号をつけて下さい。

(ロ) あなたの町や村の人々は、どの考えに賛成するでしょうか。同じように番号をつけて下さい。

(本研究の為に御指導を仰いだクラックホーン先生御夫妻、泉靖一先生、G・T・ポールズ先生、その他調査に御協力下さった多くの方々に心から感謝の意を表する。)

註

- (1) Kluckhohn, Florence: "Dominant and Variant Value Orientations," in Clyde Kluckhohn and Henry A. Murray (eds.): *Personality in Nature, Society and Culture* (New York, Alfred・A・Knopf, 1954), p. 346. 質問票は著者から直接入手、翻訳したものである。
- (2) Kluckhohn, Clyde and Others: "Values and Value-Orientations in the Theory of Action," in Talcott Parsons and Edward A. Shils (eds.): *Toward a General Theory of Action* (Cambridge, Harvard University Press, 1952), pp. 389—90.
- (3) Thorndike, E. L.: "Presidential Address to the American Association for the Advancement of Science," in *Science*, January 3, 1936.
- (4) Kluckhohn, C., op. cit., p. 394.

- (5) Ibid., p. 395.
- (6) Kluckhohn, Florence: "Dominant and Substitute Profiles of Cultural Orientations: Their Significance for the Analysis of Social Stratification," in *Social Forces*, Vol. 28, No. 4 (May 1950).
- (7) Pelzel, John and Kluckhohn, Florence: "A Theory of Variation in Values Applied to Aspects of Japanese Social Structure," in *Bulletin of the Research Institute of Comparative Education and Culture*, English Edition No. 1 (Fukuoka, Kyushu University, March 1957), p. 63.
- (8) 難波紋吉「クラックホーン」「早瀬利雄」馬場明男共編『現代アメリカ社会学』所収、培風館発行、昭和二十九年。二四六一—七頁。
- (9) Pelzel, J. and Kluckhohn, F., op. cit., p. 63.
- (10) Kluckhohn, C., op. cit., p. 411.
- (11) Kluckhohn, Clyde: "A Comparative Study of Values in Five Cultures," in Evon Z. Vogt: *A Study of Changing Values*, Peabody Museum, Harvard University, Papers, Vol. XLI, No. 1 (1951).
- (12) Benedict, Ruth: *The Chrysanthemum and the Sword*. (Boston, Houghton Mifflin Co. 1946).
- (13) Pelzel, J. and Kluckhohn, F., op. cit., pp. 62—3.
- (14) Kluckhohn, F.: "Dominant and Substitute Profiles of Cultural Orientations," pp. 277—8.
- (15) Ibid., "Dominant and Variant Value Orientations," pp. 346—55.
- (16) Spengler, Oswald: *The Decline of the West*, tr. Charles F. Atkinson (New York, Knopf, 1926—8).
- (17) Kluckhohn, F.: "Dominant and Variant Value Orientations," p. 349.
- (18) 福武直「日本農村の社会的性格」東京大学出版会発行、昭和三十二年五月三十日。
- (19) Y 部落地域の調査は主として浅井徳正氏の協力による。
- (20) 翻案については東京大学文化人類学泉靖一助教授、法社会学川島武宜教授の助言を得た。